

年度内に取り組む重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>【展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①企画展「実相 忍びの者」(会期:8/7~9/20) ②常設展「畠山重忠・秩父平氏の本拠・戦国時代の城館・供養と埋葬」 ③巡回文化財展「比企の近代遺産」(会期:10/26~11/28) ④スポット展「北武蔵の鎌倉武士」(会期:1/18~) <p>【講座・体験学習等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①企画展 関連講演会「伊賀・甲賀の忍びと公儀隠密」(実施日:9/18) ②企画展関連体験教室「チームで修行 忍びの極意」(実施日:8/21・22) ③博物館セミナー「戦国の忍びを考える ー武蔵国での戦いをめぐってー」(実施日:9/19) ④歴史講座1「武家政権の成立」(実施日:11/5)、歴史講座2「北武蔵の鎌倉武士」(実施日:12/10) ⑤文化財めぐり「鎌倉武士ゆかりの地を訪ねる」(実施日10/22・1/21・2/25) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①菅谷館跡保存活用計画の作成 <p>【新たな取組】</p> <p>NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」放送を契機とした畠山重忠・鎌倉時代の埼玉等の重点的なPR</p>
事業の実施状況と過程	<p>【展示】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①計画どおり開催 企画展「実相 忍びの者」(会期:8/7~9/20) ②計画どおり開催 常設展「畠山重忠・秩父平氏の本拠・戦国時代の城館・供養と埋葬」 ③開催予定 巡回文化財展「比企の近代遺産」(会期:10/26~11/28) ④開催予定 スポット展「北武蔵の鎌倉武士」(会期:1/18~) <p>【講座・体験学習等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①コロナ禍により変更 夏休み子ども体験教室(実施日:7/24・31)⇒県民の日特別企画・城郭体験(11/14) ②コロナ禍により中止 企画展関連体験教室「チームで修行 忍びの極意」(実施日:8/21・22) 文化財めぐり「鎌倉武士ゆかりの地を訪ねる」③(実施日:2/25) ③悪天候により中止 企画展 関連講演会「伊賀・甲賀の忍びと公儀隠密」(実施日:9/18) ④計画どおり開催 博物館セミナー「戦国の忍びを考える ー武蔵国での戦いをめぐってー」(実施日:9/19) 歴史講座1「武家政権の成立」(実施日:11/5) 歴史講座2「北武蔵の鎌倉武士」(実施日:12/10) 文化財めぐり「鎌倉武士ゆかりの地を訪ねる」①②(実施日:10/22・1/21) <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①菅谷館跡保存活用計画の作成
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナウイルス感染症の拡大に翻弄された1年だったが、対策を講じたうえで当初計画どおりの開館日数を確保。 ○ 個々の事業については、感染症対策のため中止・延期・内容変更したものが、天候不良で中止とした事業もあった。 ○ 東京五輪とともに開催が延期された企画展を開催。図録のほか数点の関連グッズを作成し販売した。 ○ 令和4年のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に畠山重忠や比企能員らが登場することによる来館者の増加を見込み、新たなグッズの取扱やスポット展示・次年度企画展の計画など、地元自治体等とも連携した事業展開を開始している。

基礎データ

職員数 (学芸員数)	6人 (4人)	総予算額 (人件費を除く)	7,411,000円	職員一人あたりの県民人口	122.4万人
収蔵資料総点数 (令和3.3末現在)	1,253点	事業経費 (上記の内数)	7,411,000円	利用者一人あたりのコスト (令和2年度)	375円
令和2年度 収集資料点数	0点	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	2,952,000円 (830,000円)	県民人口に対する利用者割合 (令和2年度)	0.3%

(注)令和3年度4月1日現在の埼玉県推計人口は7,341,788人である

2. 全館共通項目チェックリスト

		評価基準	
		完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
		着手状態乃至課題が残されている状態	B
		未着手状態	C
項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の収集	① 資料の収集方針、収集計画を策定しているか		
	② 収集方針、収集計画に基づき資料収集を行っているか		
	③ 特色あるコレクションの形成に努めているか		
	④ 有形資料に限らず、映像資料や情報資料等も積極的に収集しているか		
	⑤ 収集した資料についての調査を実施し、調書を作成しているか		
	⑥ 客観的な評価を経て購入・受け入れをしているか		
	⑦ 規定の資料台帳を整備し、資料を登録しているか		
	⑧ 規定の収集資料ラベルを設け、資料に添付しているか		
	⑨ 資料の基本データ記録を作成し管理しているか		
	⑩ 収集時に資料の殺虫処理・クリーニングを適切に行っているか		
資料の保存管理	① 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項が整備されているか	A	収蔵資料管理要項
	② 収蔵・展示資料の保存管理に関する要項を職員に周知し、それに基づいた資料の保存管理を実施しているか	B	要項副本を職員へ配布
	③ IPMの考えに基づいた資料の保存管理について、最新情報の収集や研修を行っているか	B	専門職員等から最新情報
	④ 資料特性に即した適切な収蔵施設を整備しているか	B	収蔵庫設置
	⑤ 収集資料の清掃・修理等を適切に行っているか	B	IPM実施(1回/2ヵ月)
	⑥ 有害生物・室内ガス・光種等のモニタリングを実施し、その結果に基づき適切な対処をしているか	B	月1回実施
	⑦ 資料の殺虫殺菌処理を適切に行っているか	B	忌避剤散布(7月)
	⑧ 温湿度の日常的な管理・記録化等を行っているか	A	通年測定、記録
	⑨ 光量の管理を適切に行っているか	B	適正照明具の使用
	⑩ 資料の所在確認作業を定期的に行っているか	A	年1回確認
	⑪ 資料の劣化状況を定期的に確認しているか	B	IPM実施時に確認
	⑫ 資料の修復や保存処理等の措置を計画的かつ必要に応じて行っているか	B	資料修復計画の策定
	⑬ 借用資料・寄託資料の更新手続きは適正に行われているか	A	承諾書等の定期的更新

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
資料の保存管理	⑭ 資料のデータベースを整備するとともに、情報を適宜更新しているか	A	資料目録(エクセルフォーマット)
	⑮ 収蔵庫の入退室管理簿を整備するとともに、適正に管理しているか	A	収蔵資料管理要項による
	⑯ 収蔵資料の出納簿を整備するとともに、適正に管理しているか	B	同上
	⑰ 収蔵庫の鍵を適正に管理しているか	A	同上
資料の活用	① 収蔵資料の活用に関して規程・手続きを整備しているか	A	資料特別利用、資料館外貸出規定
	② 収蔵資料の活用に関する手続き等を公開しているか	A	WEB公開
	③ 収蔵資料を展示に活用しているか	B	活用点数
	④ 収蔵資料の館外貸し出しに適切に対応しているか	A	貸出点数
	⑤ 収蔵資料の特別利用(熟覧・撮影等・原板利用等)に適切に対応しているか	B	利用点数
	⑥ 資料の基礎情報・解説付目録(紙・電子)を適宜作成・更新・公開しているか	B	WEB公開中
	⑦ 収蔵資料をホームページ等で紹介・更新しているか	A	収蔵資料公開ページ
常設展示	① 資料の展示環境を適切に管理しているか	B	空調・露光・設置・観覧者との接触等に配慮
	② 展示関連のサイン・パネル等がわかりやすいか	B	情報量、文字サイズの適正化、アイコンの活用
	③ 展示室内に監視員や監視カメラ等を配置しているか	B	受付1名、土日・祝日の警備員配置
	④ 展示情報を適宜修正・更新しているか	B	適宜実施
	⑤ 展示設備等を適宜点検しているか	B	開館・閉館時の巡回点検
	⑥ 展示ガイド等を作成しているか	B	見学のしおりを更新・常備
	⑦ 解説リーフレット等を作成しているか	B	館跡解説資料
	⑧ 展示解説等を適宜実施しているか	B	来館者の要望により実施
	⑨ 観覧者アンケートを実施し、満足度等を測定しているか	B	アンケート実施
	⑩ アンケート結果に基づいた展示改善を実施しているか	B	アンケートの集計・分析
	⑪ 県民に対し展示情報を適宜発信しているか	B	館HP、イベントチラシ作成
学習支援事業	① 事業情報を利用者に広く発信しているか	A	館HP、イベントチラシ作成
	② 多様な媒体による参加申し込み方法を用意しているか	B	電話、往復ハガキ
	③ 多様な参加者を想定したプログラムを用意しているか	B	歴史講座、体験教室、文化財めぐり等
	④ 参加者に対しサポート体制を整備しているか	A	体験ボランティアの養成・配置

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
学習支援事業	⑤ 事業実施にあたり参加者の安全に配慮しているか	A	職員とサポーター配置による安全管理
	⑥ 参加者を対象としたアンケートを実施し、満足度等を測定しているか	B	参加者アンケートによる満足度測定
	⑦ アンケート結果に基づいてプログラムの開発・改善を行っているか	C	アンケート結果を踏まえた事業計画の作成
	⑧ 来館者用の図書・情報コーナーを設けているか	A	資料閲覧コーナー
	⑨ 学芸員実習やインターンシップの学生を受け入れているか	C	希望に応じてインターンシップ受入れ
県民との連携・協働	① ボランティア制度を導入しているか	A	体験学習・館跡ガイド等
	② ボランティアの活動に関する規程が整備され、適切に運用されているか	B	ボランティア設置要項
	③ ボランティアの募集・認定の規程が整備され、適切に運用されているか	B	ボランティア設置要項
	④ ボランティアの研修システムが確立され、適切に実施されているか	B	ボランティア定例会、研修会
	⑤ ボランティアの活動成果が公開されているか	B	HP等で活動紹介
	⑥ 友の会、NPO等が館事業に参加する機会を設けているか	B	各種講座等に参加
	⑦ 地域社会で実施されるイベント等に館として積極的に関わっているか	B	スリーデーマーチ、嵐山時代まつり
調査研究活動	① 調査研究テーマを定めているか	A	館報等で明示
	② 調査研究のための予算措置等に努力しているか	B	既定予算の確保
	③ 調査研究活動を遂行するために必要な専門研修に参加し、館内に情報提供しているか	B	国等の研修に参加し、情報を提供
	④ 収集している資料に関連する専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	B	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑤ 資料の保存・管理、展示・教育普及、博物館経営等の博物館学分野での調査研究に取り組んでいるか	B	国・埼玉連等の研修への参加
	⑥ 地域貢献の視点から、館の所在する周辺地域や地域資料についての調査研究に取り組んでいるか	B	中世城郭や石造物等の調査研究
	⑦ 学芸員個々の専門分野についての調査研究に取り組んでいるか	B	各学芸員による実施
	⑧ 他館や他機関との間で共同研究等を行っているか	B	セミナー等開催
	⑨ 調査研究の経過や成果を、さまざまな媒体・方法(著作物、展示、講演、研究発表等)で公開しているか	B	講座等の開催・研究紀要等への投稿
	⑩ 調査研究の成果を、社会貢献の視点から国、市町村、地域社会等にさまざまな形で還元しているか	B	市町村の講座等に講師派遣
施設・アメニティー	① 施設の維持・改善についての計画を策定しているか	C	予算要求資料の作成
	② 展示室、収蔵庫などで耐震対策を行っているか	B	テグス留め等
	③ 危機管理マニュアルを整備しているか	A	危機管理マニュアル作成
	④ 防災・救急訓練等を定期的実施しているか	A	防災点検、防災訓練実施
	⑤ 休憩コーナー、授乳コーナー、喫茶コーナー等を設置または状況により対応しているか	B	休憩コーナー
	⑥ レンタル用の車椅子、ベビーカーは整備されているか	B	車椅子

項目	チェック内容	評価(A~C)	備考
施設・アメニティー	⑦ バリアフリー化など、改善必要箇所の把握のため自己点検を行っているか	B	施設整備点検実施
	⑧ 一般駐車場と障害者用駐車場を区別しているか	A	障害者用2台
	⑨ 手すり、点字ブロック、音声ガイダンスなどユニバーサルデザイン化への取り組みがなされているか	B	手すり、スロープ、点字ブロック等の設置
	⑩ 利用情報や館内サインはわかりやすく表示されているか	B	配色や文字サイズに配慮
	⑪ 館内サインの英文標記など国際化への対応はとられているか	B	トイレ等誘導サインの英文化
	⑫ 利用実態に応じて開館時間を設定しているか	C	夏季開館時間の延長
	⑬ 便益施設として利用者数に見合った施設・設備を確保しているか、または状況に応じて対応しているか	C	外トイレ、大型バス駐車場の整備
施設の利活	① 施設利用のための要項、マニュアルを策定しているか	C	利用案内、危機管理マニュアル
	② 施設利用のための情報を公開しているか	B	HP等で情報公開
	③ 施設を一般の利用に提供しているか	B	講座室
	④ 施設を学校団体等の利用に提供しているか	B	体験ホール、芝生広場等
	⑤ 施設が地域の賑わい創造や活性化に活用されているか	B	ロビー展の開催
	⑥ 地域や他施設・機関・学校等との連携を図っているか	B	年間共通観覧券の導入、地域の高校・大学との連携

3. 館別独自項目チェックリスト

嵐山史跡の博物館

評価基準	
完了または順調に進捗していて問題がない状態	A
着手状態乃至課題が残されている状態	B
未着手状態	C

項目	チェック内容		評価(A~C)	備考
企画展事業の実施	①	調査研究の成果を反映した展示となっているか	A	菅谷館跡をはじめとする比企地区の城館跡を紹介する
	②	メディアへの情報提供など広報活動は十分行っているか	B	県・市町村広報誌、新聞、雑誌、HPでの広報
	③	展示図録を作成し、一般に頒布しているか	A	企画展図録を頒布
	④	展示に関連した講演会等が実施されているか	A	企画展講演会の実施
	⑤	展示観覧者アンケートを実施し、満足度を測定しているか	B	アンケート実施
	⑥	外部団体の協力を得た展示となっているか	B	日本城郭協会の協力
市町村等との連携事業	①	市町村等に対して連携事業の実施を働きかけているか	B	比企地区市町村文化財担当への働きかけ
	②	市町村との連携事業を実施しているか	B	比企地区市町村文化財担当と連携した事業の実施
	③	市町村以外の団体との連携事業を実施しているか	B	彩の国文化の森連絡協議会との連携
	④	地域の博物館等と連携して利用促進を図っているか	C	埼玉西部地域館との連携
	⑤	地域の文化財活用事業に協力しているか	C	嵐山時代まつりへの協力
史跡の保存・活用	①	菅谷館跡の保存に努力しているか	A	館跡の定期的巡回、日常管理の実施
	②	菅谷館跡のガイドランスに努めているか	B	館跡ガイドツアーの実施
	③	菅谷館跡が地域に有効利用されているか	B	スリデーマーチ、嵐山時代まつり
	④	菅谷館跡の史跡としての価値を県民にPRしているか	B	立体模型や比企除館跡群の紹介展示、ガイドツアーの実施、HPでの紹介
各種事業の実施	①	歴史講座等の事業の企画について工夫しているか	B	アンケートから受講者の興味のあるテーマの把握
	②	シンポジウムなど話題性のある講座・講演会の開催に努めているか	B	最新成果を分かりやすく紹介する催し物の開催
	③	菅谷館跡の活用を促進する事業を実施しているか	B	館跡ガイドツアーの実施
	④	県内各地の史跡を探訪する事業を実施しているか	B	文化財めぐりの実施
	⑤	事業の更新について県民ニーズを把握しているか	C	事業参加者アンケートを実施し、意見の集約

令和3年度 博物館施設 総合評価

施設名 嵐山史跡の博物館

		達成	未達	達成見込
全館共通	数値目標による評価		4	
各館独自	数値目標による評価	4	2	

		完了A	課題有B	未着手C
全館共通	チェックリストによる評価	20	54	6
各館独自	チェックリストによる評価	4	13	3

計80

計20

自己評価総括

評価	<p>全館共通目標については4項目中4つが未達見込み。 嵐山館の独自目標については、6項目中4つが達成済みだが、2つは未達の予定である。</p> <p>全館共通目標については、コロナ感染症の蔓延が常態化していた中において入館者数の増加を図る取組が思うに任せなかったことが未達の主因である。 館独自目標では4項目で達成できたと評価したが、うち3項目は事業の満足度をアンケートで測定するものであった。</p>
課題	<p>コロナ禍により、入館者数、収入額など外形的な数値見込みは軒並み伸びが見られなかった。指標として設定すべき項目・数値がどのようなものであるのが望ましいのか、再検討が必要ではないか。入館者が少なくとも対外的アピールをし認知度・知名度が向上しているか、通販形式などでの売上がどのくらいあるのかなど、設定する指標に工夫が求められるのではないか。</p> <p>事業満足度を測る適切な方法について検討したい。手前みそのアンケート項目では「満足した」回答が多いのは当然。本当に9割もの入館者が当館の展示や事業展開に満足しているのか再検討が必要か。</p>
対応の方向	<p>外形的数値見込みについては全館で統一した目標設定の仕方があるので変更は困難だろうと思うが、このままでは館の不調・人気低迷の責任を「コロナ禍のため」の一点に転嫁してしまうような気がする。ウイズコロナで行くのであれば、別の目標を設定すべき。</p> <p>アンケート項目については、担当者のモチベーションにも関わるので慎重に検討したいが、単に満足・不満足を聞くのではなく、入館者の真意をより汲み取るような、またはニーズをよりの確に把握できるようなものに改めていきたいと考えている。</p>

評価結果に対するコメント

1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	別添のとおり
--------------	--------

2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員の意見	
----------	--

令和3年度 博物館評価 委員意見(嵐山史跡の博物館)

委員1コメント

1) 数値目標による評価

- * 未達とは云え、観覧者が95%に達しているので、コロナ禍において努力を評価したい。
- * この博物館では、出前事業や学校団体などの利用がないのか。もし、無いのであれば今後取り組む必要があるのではないか。
- * 企画展や講座などのアンケートの分析結果を見ていないため正確な判断は下せないが、アンケートの満足度が高いのは特徴ある展覧会や講座が企画されているからと推察することができる。
- * 本来、令和3年度の事業計画を見ながら評価をしなければならないが、令和3年度の事業計画がホームページにも掲載されていない。

2) チェックリスト

* 全館共通項目および館別独自項目チェックリストを見ると「B」項目67.5%、「C」項目7.5%になり、「B・C」を合わせると75%になる。その中身を見ると博物館としての機能を果たすための基本的事項が全くクリアできていないと思われる。この状態は、組織の見直しがあれば非常に厳しい状況に置かれるのではないかと考えられる。

早急に内部で課題を整理して、改善計画を作成し、それを実施することが望ましい。

全体の付帯意見:

埼玉県の博物館評価は、平成18年から始まって令和3年度で16年目になります。この間、文化財保護法、博物館法、埼玉県文化財保存活用大綱ができ、法律面で博物館の役割が変化し、それにコロナ禍も含めて市民社会の博物館に対する要求も多様になっています。そのため、現在の博物館評価が時代に変化にそぐわなくなっているのではないかと感じています。嵐山史跡の博物館の評価の問題もありますので、評価方法の見直しをしたらどうでしょうか。見直しは簡単な問題でないことは重々承知していますが、コロナ後を見通して検討してみたらいかがでしょうか。

委員2コメント

- ・コロナ禍の影響が残るなか、全国的にみても博物館等の入館者数(利用者数)は減少しており、目標値や基準値についてはどこかの時点で再検討する必要があるのではないか。
- ・コロナの影響で対面の事業が実施できないなか、ホームページを活用した各種情報公開を実施しており、このような活動はコロナ以後も継続してほしい。また、このような時期だからこそ、野外博物館である利点を活用した事業なども開発してほしい。
- ・昨年度に比べて、BやCの評価が多いようであるが、同一基準内での変化ならその原因について明記すべきではないか。また、評価A～Cと備考が整合していない部分も見られるので、一般の方が見る場合分かりにくいのではないか。
- ・厳しい状況のなか、企画展などを開催していることは大変だと思うが、是非継続していただきたい。

委員3コメント

- ・全館共通チェックリストによる評価では、未着手C評価が6つ、各館独自チェックリストによる評価では、未着手C評価が3つある。C評価の数が多く驚いている。(前年度は、コロナ禍でも未着手の項目が少なかった。)今年度はC評価の見直しに力を注いでほしい。
- ・NHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」の放送を契機として、畠山重忠や比企能員に興味を持つ人も多くいる。これは、嵐山史跡の博物館を全国にアピールできる絶好の機会である。
- SNS等で魅力ある企画や展示を情報発信し、嵐山史跡の博物館の知名度を上げ、来館者を増やしたい。